

令和2年度第1学期始業式 ～私達にできること～

先週には桜も見頃となり季節は將に春たけなわです。一年のうちで最もさわやかで、物事が始まる季節となりました。

いよいよ今日から、新しい年度、新しい学年、新しい学期がスタートします。

2年生は、学校を中心として活躍する学年です。部活動や生徒会など君達の肩にかかってくる年です。また、本日午後の入学式において、新入生が入学してくれば上級生となり、様々な場面で最も近い手本として、その姿が注目される立場となります。3年生の皆さんは、リーダーとして学校を引っ張って欲しいし、同時に君達の築いた成果を後輩に引き継いでください。また、自覚をもってベストを尽くし、進路決定に向けて、その可能性を開花させる年です。専攻科の皆さんは、より専門的な知識や技術を習得し、資格を確実にとり、海のスペシャリストとしての道を歩んでほしいと思います。

世界保健機関（WHO）は、世界で120万人以上の感染者6万人を超える死者となり、国内では厚生労働省が、4月6日時点で感染者は3654例、死亡者は73名となったと公表しているように、今世界は新型コロナウイルス感染症と戦っています。新型コロナウイルス感染症は「COVID-19」と表記されますが、「co」はコロナ、「vi」はウイルス、「d」は疾患を意味し、「19」はこの疾患が2019年に出現したことに由来します。

そうした状況の中、本校では、国や県の動向や多様な教育活動を有する本校の状況を踏まえ、直ちに新型インフルエンザ等対応マニュアルに準じて「新型コロナウイルス感染症対策マニュアル」をつくり、3月30日には「新型コロナウイルス感染症対策委員会」を開催、学校としての「行動計画」を策定し、学校医さんの助言や指導を受けながら、各キャンパスや青海寮などの感染症対策を順次作成するなど、学校として組織的に対応しています。部活動については、3月26日の顧問会議において全ての部の顧問で部活動における感染症対策を確認した上で、部活動への参加承諾のある部員のみで4月1日から活動を再開できることとしました。青海寮については、食事や入浴、自由時間など寮生が時間や場所を共有することが多いことから、学校医さんの支援をいただき寮生の状況について確認の上で4月5日に開寮しました。

こうした準備をしながらいよいよ4月8日の学校再開となりました。

さて、生徒の皆さんが健康に学校生活をおくり教育活動を継続し、社会の一員として感染防止に参画するために、できることは何でしょうか。

以下、私の考える主なものをあげておきます。

1 新型コロナウイルス感染症の特徴を把握する

新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針（令和2年3月28日 新型コロナウイルス感染症対策本部決定）の抜粋を参照 ※末尾に掲載

2 学校内（青海寮を含む）での感染症対策

- ・ 手洗いの励行 → ウイルスを洗い流す
- ・ 咳エチケットの励行 → 他人や周囲の物に飛沫を付着させない
咳エチケット 咳・くしゃみをする際に、マスクやティッシュ・ハンカチ、袖を使って、口や鼻をおさえること
- ・ 教室等での換気の徹底
- ・ 多くの人が手を触れる箇所の消毒液での清掃
- ・ 3条件（①②③）が同時に重なる場を徹底的に回避
 - ① 換気の悪い密閉空間
 - ② 多くの人が密集
 - ③ 近距離での会話や発声

3 自宅での検温の徹底と風邪症状の確認、抵抗力を高める

- ・ 自宅での毎朝の検温と健康観察をお願いします。
- ・ 37.5度以上の発熱、風邪症状、呼吸器症状、強いだるさや息苦しさなどがある場合は、保護者の方から学校に連絡ください。
- ・ 免疫力を高めるため、十分な睡眠、適度な運動やバランスの取れた食事を心がけましょう。

4 集団感染のリスクを避けるため3条件が同時に重なる場所への外出を控える

5 ネット等でのデマや噂話に惑わされない冷静な行動

新型コロナウイルスには未知のものが多く現状では治療薬もなく誰もが不安を抱いています。さらに日々状況が変化し先が見えない状況が続いています。こうした状況下では、人の不安につけこんだ根拠のない情報に惑わされないことが大変重要です。

もし「こんな話を聞いた」などがありましたら、すぐ先生に相談してください。

本校ではこれからも感染症対策を行い、すべての生徒、教職員が高い意識で行動すれば感染予防できると信じています。生徒の皆さんには普段の学校生活において感染症対策をお願いしますこととなりますが協力をお願いします。保護者の皆様におかれましては、お子様についての心配や学校の対応についてのご意見等ありましたらご連絡ください。

なお、学校の内外を問わずすべての人が、新型コロナウイルス感染症に関わる偏見や差別につながる行為にさらされることは断じて許されません。

終わりになりますが、午後には、新入生が希望に胸膨らませて入学してきます。全ての生徒の皆さんが学び甲斐のある学校づくりに心を合わせ、当面制約のある学校生活となりますが、新しい気持ちで各自の目標に向かって努力してくれることを期待しています。

令和2年4月8日

山口県立大津緑洋高等学校長 原田治幸

新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針（令和2年3月28日 新型コロナウイルス感染症対策本部決定）から一部引用

新型コロナウイルス感染症については、下記のような特徴がある。

- ・ 一般的な状況における感染経路の中心は飛沫感染及び接触感染であるが、閉鎖空間において近距離で多くの人と会話する等の一定の環境下であれば、咳やくしゃみ等の症状がなくても感染を拡大させるリスクがあるとされている。
- ・ 集団感染が生じた場の共通点を踏まえると、特に
 - ①密閉空間（換気の悪い密閉空間である）
 - ②密集場所（多くの人々が密集している）
 - ③密接場面（互いに手を伸ばしたら届く距離での会話や発声が行われる）という3つの条件が同時に重なる場では、感染を拡大させるリスクが高いと考えられる。
- ・ 世界保健機関（World Health Organization: WHO）によると、現時点において潜伏期間は1－14日（一般的には約5日）とされており、また、厚生労働省では、これまでの新型コロナウイルス感染症の情報なども踏まえて、濃厚接触者については14日間にわたり健康状態を観察することとしている。
- ・ 新型コロナウイルスに感染すると、発熱や呼吸器症状が1週間前後持続することが多く、強いだるさ（倦怠感）を訴える人が多いことが報告されている。
- ・ 中国における報告（令和2年3月9日公表）では、新型コロナウイルス感染症の入院期間の中央値は11日間と、季節性インフルエンザの3日間よりも、長くなることが報告されている。
- ・ 罹患しても約8割は軽症で経過し、治癒する例も多いことが報告されている。
- ・ 重症度としては、季節性インフルエンザと比べて死亡リスクが高いことが報告されている。（中略）また、特に、高齢者・基礎疾患を有する者では重症化するリスクが高いことも報告されており、医療機関や介護施設等での院内感染対策、施設内感染対策が重要となる。（中略）
- ・ 現時点では、有効性が確認された特異的な抗ウイルス薬やワクチンは存在せず、治療方法としては対症療法が中心である。